

網走・小清水と濤沸湖

～ラムサール条約登録湿地～

網走市と小清水町にまたがる濤沸湖は、オオハクチョウ等の渡り鳥の重要な中継地となっています。例年、野鳥や植物の観察に多くの方が訪れる他、ワカサギ漁等も行われています。今回は濤沸湖の歴史と魅力をご紹介します。

濤沸湖の歴史

濤沸湖はアイヌ語の下・プツ(湖の・口)を語源とする周囲27.3km、面積900haの湖です。網走市と小清水町の境目に位置し、オホーツク海と通じていることから川の水と海の水が混じり合った汽水湖という種類の湖でもあります。濤沸湖は長い間、アイヌの人々の漁の場として利用されてきました。20世紀になり、濤沸湖付近に本州からの移住者が増え始めると、さらに漁場として発展し、ホタテ漁、ホッキ漁が盛んになりました(現在はこの2つの漁は行われておらず、代わりにカキの養殖等が行われています)。1928年になるとワカサギのふ化事業も行われています。また、1956年に第1次南極観測探検隊の一行が、濤沸湖の冬の気候を利用し、耐寒訓練を行ったという記録も残されています。



濤沸湖

濤沸湖の渡り鳥

2005年、濤沸湖はラムサール条約に登録されました。ラムサール条約は正式名称を「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、登録によって濤沸湖は渡り鳥の大規模な飛来地として国際的に重要な湿地として認められました。

冬鳥であるオオハクチョウは、夏の間をシベリアで過ごし、冬が近づくとサハリン、北海道、東北地方と徐々に南下していきまします。北海道を中継するとき、濤沸湖が一つの候補となります。

これとは反対に夏鳥は、夏は涼しい地に滞在し、冬になると南の温暖な地域へ向かいます。濤沸湖では、アオサギやカワセミなどが夏に見られます。

このように濤沸湖は夏鳥と冬鳥が両方訪れるため、年間を通して様々な水鳥を見ることができるとです。

濤沸湖に生息する水鳥

濤沸湖に生息する水鳥の一部をご紹介します。

オオハクチョウ

濤沸湖といえばハクチョウ!という方も多いでしょう。冬鳥であるオオハクチョウは、10月上旬から現れ始め、4月末まで見ることができます。



タンチョウ

濤沸湖では冬より夏の方が多く見られます。冬の間は釧路湿原等へ移動するため、釧路湿原とは見やすい季節が逆になるのが特徴です。



濤沸湖水鳥・湿地センター



濤沸湖の環境学習や保全活動の拠点となる施設です。様々な展示物を通して、濤沸湖の魅力を伝えていきます。

所在地 北海道網走市字北浜203番3地先
電話番号 0152-46-2400
開館時間 9:00～17:00
休館日 月曜日(祝日の場合は次の平日)
年末年始(12月29日～1月3日)
※発行日時点の情報になります。



斜里町
Shari Town



清里町
Kiyosato Town

斜里町 シマフクロウと知床連山

斜里町のカントリーサインには知床連山をバックにシマフクロウが大きく描かれています。シマフクロウはフクロウの中で世界一の大きさを誇り、古くからアイヌ民族の中では「コタンコロカムイ(村の守り神)」と呼ばれ、守護神として敬われています。日本では北海道の知床、日高地方、根室地方でしか見ることができません。また、生息数が非常に少ないことから絶滅危惧種に指定されており、国を挙げて保護活動が行われています。

清里町 ムクゲと斜里岳と焼酎工場

清里町は知床連山と阿寒の山々の間にある斜里岳のふもとに位置し、例年多くの登山者で賑わっています。ムクゲを町の花としており、8月末から9月上旬にかけて町中で咲き誇る姿が見られます。

また、日本で初めてジャガイモを原料とした焼酎を製造した町としても知られており、地域に根差した焼酎造りをしています。このことから、カントリーサインには斜里岳をバックに焼酎工場とムクゲの花が描かれています。



知床連山



ムクゲ

編集後記

まもなく、21世紀の5分の1が終わろうとしています。20世紀生まれの皆さんは、思い描いていた21世紀の通りになっているのでしょうか。この20年を振り返ると産業の発達が激しく、日々の暮らしが大きく変わったという方も多いと思います。また20年後に2020年を振り返ると、今の当たり前すらも古いものになっているのかもしれませんが。

同じ「20」つながりでもう一つ。地域の扉は記念すべき第20号を発行いたしました。ここまで取材にご協力いただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬご愛読をよろしくお願いいたします。

地域の国道

Vol.3
244号線

地域の国道を紹介するコーナーです。3回目は、網走市と根室市を結ぶ約140kmの国道244号線をご紹介します。

① 網走市の起点

国道244号線は、網走市北4条東1丁目交差点(網走信金本店前)が起点です。ここは、網走市と旭川市を結ぶ国道39号線の終点でもあります。

国道244号線は1953年5月に指定され、今日まで起点、終点とも変更のない路線です。

② 網走国定公園

網走市役所前を通り、市街地を出ると、海岸沿いの区間を通り、オホーツク海を一望することができ、藻琴湖や濤沸湖、小清水原生花園などの網走国定公園に指定されている区域を通ります。途中ではオホーツク海に一番近い駅「JR北浜駅」や道の駅「ほなやか(葉菜野花)小清水」の前を通ります。

③ 斜里町内

小清水町を通過し、斜里町へ向かいます。斜里町内では、国道334号線が一部区間を重複します。斜里町市街地を抜けて根北峠に向かいます。

現在の斜里町市街地の区間は1971年に斜里新大橋の開通に伴うバイパス道路で、それまでは斜里川に沿って走り、JR知床斜里駅前など、斜里町の中心部を通るルートでした。

④ 根室管内へ

斜里町と標津町を結ぶ根北峠は、国道334号線知床横断道路が通行止めとなる冬季には、オホーツク管内と根室管内を結ぶ唯一の国道となるため、交通の面で非常に重要な道路です。標高487mとオホーツク地方の峠では標高が低く、比較的走りやすい道路です。

標津町を通過すると、再び海沿いの区間を通り、国後島を望むことができます。

別海町を経由し、根室市厚床の国道44号線との交差点が終点になっています。



小清水原生花園(濤沸湖周辺)



根北峠



オホーツク管内



根室管内

地域のがんばる人

Vol.7

地域で活躍されている企業家を中心に紹介していきます。第7回目は、網走市駒場地区で2020年5月に高級食パン店「パンダが笑ったら」を夫婦で開業した、齊藤さんです。

開業のきっかけ

元々夫婦で全国のパンを食べ歩くことが趣味でした。特に首都圏のお店が記憶に残っており、パンの味はもちろん、お店の雰囲気、接客など、すべてが素晴らしいお店だと感じました。このような店を自分でも持ちたいと強く思い、開業を決心致しました。

また、現在高級食パンがブームですが、関西ではこちらで言う高級食パンが日常の食パンであり、それをこの地域でも一般的にしたという思いもありました。

「パンダが笑ったら」という店名

「パンダも思わずびっくりしちゃうパン」をコンセプトにしています。変わった店名によるギャップも狙っていて、「何のお店だろう」と立ち寄ってくださることを目指しています。

店舗の見た目も店名に合わせました。当初はピンク色の可愛らしい色合いを考えていましたが、結果的にパンダの絵が映える赤と青を基調とした現在の色に決めました。

パンへのこだわり

材料は一部を除いて、国産のものを使用し、安心して召し上がっていただけるように努めています。材料にこだわらず、パンの価格が跳ね上がってしまったら、かえってお口に合わなくなってしまうように気を付けています。

商品名にもこだわっています。可愛らしい名前にしたく、「プレーン食パンを「パンダパンだ」、レーズン食パンを「星のパンだ」と名付けています。お客様から「プレーン食パン一つください」と言われるよりも「パンだパンだ一つください」と言われる方がうれしく、名付けた甲斐があったと思っています。

地域との関わりについて

現在網走管外からのお客様も多く来ていただいているので、観光振興の助けになっていっているとうれしいです。地域を素通りして知床へ行ってしまう方が多いため、当店が網走に立ち寄るきっかけになれたらと考えています。

また将来的には、地域貢献の一環として地域イベントに積極的に関わりたいです。パン屋に憧れる学生のためには職場体験会等も開きたいと考えています。



プレーン食パン「パンだパンだ」



商品の一例
高級食パン以外に惣菜パン、菓子パンも取り扱っています。



レーズン食パン「星のパンだ」
1日20食限定で、すぐ売り切れてしまう大人気商品。



齊藤 直幸(さいとう・なおゆき)
大学を卒業後、網走市内の税理士事務所にて長年勤務。2016年には東京農業大学ビジネス地域創成塾にて、経営や創業について学ぶ。全国有名パン店食べ歩きに興味を活かし、パン製造小売店「パンダが笑ったら」を創業。
齊藤 千春(さいとう・ちはる)
高校を卒業後、網走信用金庫へ入庫。結婚を機に退職後、パート職員としても長年勤務した。「網走信金にて培った接客のスキルが、大いに活かしている」と、直幸氏の談。



所在地 北海道網走市駒場北3丁目3-16
電話番号 0152-67-7550
営業時間 10:00~18:00
定休日 月曜日と第1・第3・第5火曜日
※店舗情報は発行日時時点の情報になります。